

会 議 録

会議名 (審議会等名)		相模原市社会教育委員会会議 (第 1 回)		
事務局 (担当課)		生涯学習課 電話 0 4 2 - 7 6 9 - 8 2 8 7 (直通)		
開催日時		令和 8 年 5 月 1 9 日 (火) 午後 6 時～午後 8 時		
開催場所		相模原市役所会議室棟 2 階 第 4 会議室		
出席者	委 員	1 2 人 (別紙のとおり)		
	その他	0 人		
	事務局	6 人 (生涯学習課長、外 5 人)		
公開の可否		☒ 可 ☐ 不可 ☐ 一部不可	傍聴者数	0 人
公開不可・一部不可の場合は、その理由				
議 題 等		1 あいさつ 2 議題 (1) 研究調査について (2) その他 3 その他		

議 事 の 要 旨

生涯学習課長あいさつ、新委員の紹介、事務局職員紹介の後、事務局から社会教育委員の役割について説明した。

1 議長あいさつ

秦野議長からあいさつがあった。

議論に先立ち、地域学校協働活動について事務局から説明を行った。

2 議題

(1) 研究調査について

秦野議長から「今期全体スケジュール」について説明があった。

(秦野議長)

2027年の後半は、研究調査をまとめるための期間なので、研究調査に費やす時間は1年と少ししかない。そのため、各委員の選出母体である団体のスケジュールも考慮して、計画を立てていただきたい。

相模原市の社会教育委員の活動は、自分たちで研究調査から調査結果の執筆まで行っている。そのため、定例会後の宿題なども分担して行っていきたい。

前回の定例会で、委員の関心が主に子どもに関することだと分かったため、子どもの能力発揮や居場所づくりについて事例を共有したり、社会教育委員としてどのような役割が担えるのか考えたりすることが、今期のテーマを形作る基盤となると思う。

(齊藤(賢)委員)

相模原市でコミュニティ・スクールを設置している学校の割合が、全体の30%程度であることに課題意識を持ち、前回の定例会で、コミュニティ・スクールに関して協議をした。他の政令指定都市では70%~80%程度の割合でコミュニティ・スクールを設置しているにも関わらず、なぜ相模原市では導入率が低いのかを知りたい。コミュニティ・スクールと地域学校協働活動の一体的な推進が重要であるため、それが成功している自治体を視察し、なぜうまくいっているのかを知りたい。

(秦野議長)

パーセンテージとしては低いが、そもそもスタートラインが異なっている。相模原市は、設置校の数を増やすために積極的に取り組んでいる最中で、令和2年の提言を受けて5年間で30%という数字である。自治体によってスタートの時期、進め方や地域と学校の関係性が異なっているのと、相模原市が現在取り組んでいる最中であるということを踏まえると、少しデリケートな調査事案だと思う。

研究調査をまとめるのは、市でのコミュニティ・スクール事業がより進んでいる令和10年になってしまうので、かえって事業を混乱させてしまうかもしれない。

このことについて、事務局から説明をお願いしたい。

(事務局)

相模原市では、コミュニティ・スクールを設置するための準備をしている段階である。コミュニティ・スクールを設置した学校は約30校で、コロナウイルス感染症の影響や他の自治体とスタートが異なっていることから、導入が遅くなっている。一方で、学校教育課を中心に、校長先生等への働きかけを行い、更なる導入に向けて施策を進めている。

地域学校協働活動推進員の配置については、コミュニティ・スクールを設置した1年後をめどに、推進員を配置する仕組みとなっている。4月1日時点で、推進員を配置している学校は16校で、推進員は20名である。

横浜市の事例は研修などの場面で紹介されることが多く、先進的な事例として認識している。

(伊藤副議長)

地域学校協働活動推進員が配置された16校では、推進員は実際に活動をしているのか。

(事務局)

必ずしも毎月活動しているわけではない。学校の要望や考えに沿って推進員は活動している。

(秦野議長)

地域学校協働活動は、委員の関心が高い分野ではあるが、別ルートで動いていることを承知いただきたい。

地域の中で子どもたちの育ちを支える方策を考えたいと思う。各委員が関わっているそれぞれの活動が、子どもたちのためにどのように動いているのかを理解することは、学校での課題解決にもつながってくる。子どもの育ちと地域の連携について、委員が行っている活動の事例を教えてほしい。

(江藤委員)

桜美林大学では、横山小学校と連携している事例がある。横山小学校で学校運営協議会の委員として昨年より参画しており、桜美林大学の学生に対して、小学校でのボランティアの募集についての案内をし、横山小学校で交流や居場所支援を活発に行っている。

こうした連携を先進事例として研究調査するのも良いと思うが、秦野議長が話される通り、社会教育委員の活動範囲なのか迷うところもある。

(松本委員)

P T Aと公民館の連携については、公民館の催しに関するお便りが学校に届くことはあるが、P T Aがそこに介入することはあまりない。P T Aとしてお手伝いすることはあっても、一緒にやろうという感じはない。従来の公民館の企画に少し乗っかるという形ではなく、公民館と手を組んで一緒に事業を行うことができれば、より大きな事業も可能となるかもしれないと思う。

(齊藤(賢) 委員)

子ども会育成連絡協議会はもともと、公民館区にある子ども会を束ねていたが、現在は縮小傾向である。子ども会における地域とのかかわりについては、公民館を会場にして活動したり、公民館の中にある青年部とともにイベントをしたりすることがある。他にも、学校の体育館でイベントするなど様々な活動を行っている。

(小杉委員)

中央公民館で家庭教育事業に関する講座の運営をしている。6月に2回、「はじめてでも安心 やさしいヨガとお茶くらべ」の企画をしていて、子連れの方も含めてどなたでも受け付けている。12月には「親子でお菓子デコ&おかいものヒーローゲーム」、「親子でそば作り体験」のイベントを行う予定である。

他にも、あじさい会館で不登校の親向けにお話会をしたり、生活クラブで赤ちゃんからお年寄りまでを対象とした居場所カフェを開いたりしている。

(長沢委員)

子育て広場と社会教育施設との連携について、子育て広場が博物館に出張する予定である。また、普段は公民館を会場に開催している、アートセラピーを博物館で行う予定もある。博物館は、利用する層が小学生以上であるというイメージを払拭したいという考えがあり、プラネタリウムでヨガをするなどの取組をしている。

子育て広場としても、従来行っていた宣伝のお手伝いにとどまらず、さらに踏み込んで博物館と一緒に事業を行っている。

障がいがある子のために博物館を貸し切って上映会をやりたいと依頼してみたら、博物館側で時間を調整してくれるという回答があった。こちらの投げかけに向こうが応えてくれるような事例は、今後のために参考となるのではないか。

(秦野議長)

第56回関東甲信越静社会教育研究大会神奈川大会では、茅ヶ崎市の社会教育委員が、障がいがある子どもとその親が公民館を利用しにくいことから、職員と親とで話し合いの場を設け、一緒に授業をしたという事例を紹介していた。困りごとを投げかけてみれば、工夫をしてもらえる事例がある。そうした橋渡しを行うことも、社会教育委員にできることなのかもしれない。

(井上委員)

文化協会と社会教育施設のつながりについては、公民館を活動の場所として利用をしているものの、場所が足りていない団体が多い現状がある。また、文化協会は高齢者がほとんどで、子どもとの関わりは少ない。

ボーイスカウト・ガールスカウトの活動は、災害時などの自助・共助の力が必要とされる場面において、非常に役に立つ。ボーイスカウト・ガールスカウトと社会教育がつながり、色々な活動ができれば、スカウトの子がそれぞれ学んできたことを発信することができる。一緒に学ぶような経験は社会で非常に役に立つのではないか。

(秦野議長)

各委員が、様々な切り口で子どもの育ちを支援している。そうした活動がうまくつながれば、地域学校協働活動にもよい影響があると思う。それぞれの団体が、地域の中でどのように子どもの育ちを支援し、力を発揮してもらうための手伝いをしているのか、我々委員はお互いにあまりよく知らない。それについて知ったうえで、子どもの支援に取り組む団体をつなげることが重要なのではないか。

(小林委員)

前回の研究調査報告書などを読むと、相模女子大学と公民館の連携などの事例が載っていて、有益な情報があるものの、これが市民の方に届くのか疑問だった。相模原市には色々な団体や施設があり、目的や内容が同じような取組をしていたとしても、各団体の横のつながりが少ない。同様の取組をしている団体同士をつなげるためのネットワークをつくるというのも、研究調査の柱となり得ると思う。

(齊藤（賢）委員)

対象を高齢者としてきた社会福祉協議会も、子どもへと広げている。子どもの学ぶ場所についても、より詳しく知れるとよいと思う。

(齊藤（信）委員)

地域学校協働活動について初めて知ったが、地域と学校の間を取り持つコーディネーターについて、質と量の兼ね合いや高齢化の問題が生じると思う。やはり学校と地域では、役割分担の歪みみたいなものが生じ、現場である学校が混乱するのではないかと推察する。これを踏まえると、地域人材を発掘、育成、持続化をさせる成功事例の可視化をしてみたい。

(江藤委員)

町田市の生涯学習センターでは3か月に1回、公民館関係の雑誌を発行している。その雑誌は、講座などの情報を取りまとめて発信していて、これまでの議論の参考になるかもしれない。

なお、今回の研究調査や提言は、前回の研究調査と紐づけた方がよいのか。

(秦野議長)

無理に紐づけする必要はないと思う。前回の研究調査は、前々回のものとつなげてはいない。

(江藤委員)

可能であれば、先人たちの知恵や経験をつなげられたらよい。令和元年の研究調査報告書において、「地域住民・地域活動団体・市民活動団体等のネットワーク形成」や「ネットワーク型公民館への転換」について提言されていることから、ネットワークづくりや情報の共有に関するニーズがあったことが分かる。

(本橋委員)

ユニコムプラザさがみはらには、横山小学校からコミュニティ・スクールについて

の問い合わせがあった。他にも、小学校や公民館からの問い合わせが増えてきた。その要望に応じて、大学の持っている情報や人材を提供することで、大学と地域を結ぶプラットフォームの役割を果たしている。

ユニコムプラザさがみはらですべてが解決できるわけではなく、行政、ソレイユさがみ、ボランティアセンター、国際交流ラウンジなどのボランティア関連の組織とつなげることが重要である。

行政は縦割りのため、横のつながりをつくるのに限界があるが、公民館、自治会や商店街に属す地域の方も豊富な知識を持っている。ネットワークを広げることの解決には、そうした組織との関わりが必要である。

他にも、さがみはら地域づくり大学の科目の一つとして、公民館職員による講座を実施している。地域づくり大学は、地域づくりに携わる人材を育成するためのプログラムで、行政や地域の人を巻き込みながら、多面的に知識を身につけることができる。
(秦野議長)

社会教育委員は、多様な分野で活躍しているので、それぞれが行っている活動をまとめるだけでもかなりの情報量になる。お互いの活動をつなげることができれば面白いと思う。伊藤副議長は、公民館の立場としてどのように考えるか。

(伊藤副議長)

公民館では、つなげる活動を行っていると自覚していたが、そうではないこともあるようだ。公民館職員として働いていると、各地域の特色があるために自分たちでやっていくという意識になり、視野が狭くなってしまうことがある。

公民館職員は、3年で人事異動や任期満了してしまうため、ネットワークを広げることが難しい。

分からないことがあったときに、お互いの知識を結びつけるのはいいことである。公民館は、訪れる団体を応援する側面が強い。そのため、交流や意見交換ができるシステムがつくれたらよいと思う。

(秦野議長)

各委員が活動している内容について、まだあまり分かっていないと思う。そこで、20歳代までの子ども・若者を対象に活動している団体について事例を探すのはどうか。

(斎藤（賢）委員)

学校からは視点を外して、ネットワークをつなげることを目的にするのか。学校は、個人情報保護法の観点から関わりにくい。

(秦野議長)

学校をスタートにするのは避けたい。ネットワークについては、大きな一つのネットワークをつくることを目的にするのではなく、まずは素材を探して共有するのはどうか。

(江藤委員)

社会教育は非常に幅広い。対象となる活動について、公的な社会教育に限定するのか、広義の社会教育とするのか定めておくべきである。

(秦野議長)

NPO法人を含めて、非営利目的で活動している団体に限定するのはどうか。

(斎藤（信）委員)

具体的な事例を収集することで、見える化できるかもしれないが、それをつなげるのは別問題ではないか。

団体同士をつなげるための橋渡しが社会教育委員の役割だとすると、一過性の議論ではなく、仕組みをつくることが重要である。例えば、コーディネーターが必要であれば、それを形にしていくのはどうか。

(長沢委員)

子育て支援に関しては、ネットワーク化が非常に難しい。子育て支援について複合的に説明できる人はいないため、コーディネーターはいた方がいいと思う。特に、分野に特化したコーディネーターは必要である。

(江藤委員)

相模原市において社会教育士がどのように活躍できるかを考えるのもよいのではないか。

(長沢委員)

相模原市には情報をまとめる人がいない。特に子育て支援に関しては、どこに何の情報があるのか、相模原市のHPで探すのも大変である。情報を横断して教えてくれる人が相模原市の職員にいるわけでもない。

(本橋委員)

町田市の公民館は、広域公民館であるため、情報を集める作業を行う人がいる。一方で、相模原市の場合はそれができていない。

(長沢委員)

公民館では、職員が3年から4年で異動してしまうのがもったいない。

(秦野議長)

令和5年に提出した研究調査報告書で、拠点公民館のアイデアを出した。しかし、拠点となる公民館に人と予算を結び付けないと難しいという話があった。団体同士をつなげることにする提言も、初めは仕事を増やしてしまうために忌避されるが、つながることの魅力を伝えられたらよいと思う。

(伊藤副議長)

横並びの公民館にもよさがある。連携できるものは連携して、無理する必要はないと思う。ひとつの公民館では難しいものに関しては、公民館同士でつながることができれば良い。ただ、4月の段階で1年の計画を立てないと、行政組織として難しい部

分がある。

（秦野議長）

各委員が現在取り組んでいる活動の情報をまとめ、素材を集めることから始めたい。次回の定例会では、それをどのように活用して研究調査を行うか考えるのはどうか。

（斎藤（賢）委員）

何のために活動しているかの主題がないと、それぞれが異なる事柄について調べてしまうのではないか。

（斎藤（信）委員）

それぞれが「何か」にとって良い活動をしているので、その「何か」を定めておくことが必要である。

（秦野議長）

「子ども・若者がそれぞれもっている力を発揮する」ということは毎回の会議で話題に上っている。「子ども・若者が力を発揮できるように支援している活動」を教えてもらいたい。

（長沢委員）

自分が活動に携わっていない所属団体の活動について書くかもしれない。

（若林委員）

サポーターが派遣されるようになった道のりや新年度の悩みを共有するイベントについて書いてみたいと思う。

（江藤委員）

公民館の活動をイメージすると、高齢者や子育て世代も対象になるのではないか。

（秦野議長）

子育て世代への支援についても、ゆくゆくは子どものためになるので、対象に入れてよいと思う。大学生についても、積極的に事例を収集してほしい。

事務局を通して、事例収集のフォーマットを送るので、6月末までに事務局へ提出していただきたい。

（2）その他

議事なし。

3 その他

（議長）

神奈川県社会教育委員連絡協議会理事会の報告

（事務局）

神奈川県社会教育委員連絡協議会総会の案内

以上で、社会教育委員会議第1回定例会を終了する。

伊藤副議長のあいさつで会議を終了した。

以 上

令和8年度 第1回社会教育委員会議定例会出欠席名簿

	氏 名	所 属 等	備 考	出欠席
1	田中 穰一	相模原市立小学校長会		欠席
2	井上 邦子	相模原市文化協会		出席
3	松本 公美	相模原市P T A連絡協議会		出席
4	伊藤 孝久	相模原市公民館連絡協議会	副議長	出席
5	齊藤 賢一	相模原市 子ども会育成連絡協議会		出席
6	長沢 亜希子	こみかる・きっず相模原		出席
7	若林 由美	一般社団法人 こども家族早期発達支援学会		出席
8	江藤 佑	学識経験者（桜美林大学特任講師）		出席
9	秦野 玲子	R E L e a r n i n g代表	議長	出席
10	本橋 明彦	学識経験者（相模女子大学常務理事（総務担当理事））		出席
11	小林 政美	特定非営利活動法人 男女共同参画さがみはら		出席
12	齊藤 信	公募		出席
13	小杉 美智子	公募		出席
14	雨宮 健一郎	特定非営利活動法人 文化学習協同ネットワーク		欠席